

◎令和5年度業務委託 料金徴収員基本配置人員算定基準

【算出式】

- ①ブース内総労働必要時間の算出
基本レーン [基本人員 × 営業時間 × 営業日数] + 繁忙時レーン開放時間……A
- ②営業開始・終了に伴う必要労働時間の算出
[基本人員 × (営業開始必要時間 + 営業終了必要時間) × 営業日数] ……B
- ③総労働必要時間の算出
 $A + B = C$
- ④総必要人工数の算出日数
 $C ÷ 1人当たり勤務時間／日 …… D$
- ⑤必要人員数の算出
 $D ÷ 1人当たり年間勤務日数$

【算出内訳】

- ①基本人員 2名（各方向別の車両から徴収が可能な最低基本人員）
ただし箱根スカイラインは、平日の平均通行台数が280台/日以下の月の平日に限り、1名（両方向の車両から徴収）
- ②繁忙時レーン開放時間の算出
 (1) 令和4年9月1日～令和5年8月31日間の時間別方向別交通量から曜日別（平日・土曜・日祝日別）の時間別方向別台数を算出する。
 (2) 上記(1)の時間別方向別台数を各曜日別日数で除することで、平均時間別方向別台数を算出する。
 (3) 上記(2)の平均時間別方向別台数にて、繁忙時に基本レーンでは対応できないため予備レーンの開放を必要とする時間数を求める。
 この基準となる台数は日本道路公団設計要領「車線数、サービス時間及び平均待台数と処理可能台数」におけるピーク時台数を使用する。

道路別	伊豆中央道	修善寺道路	伊豆スカイライン		浜名湖新橋 箱根スカイライン
			進入	退出	
サービス・タイム	8秒	8秒	18秒	10秒	8秒
1レーン当たり ピーク時台数	—	230台 ^{*1}	100台 ^{*1}	270台 ^{*2}	340台 ^{*2}
2レーン当たり ピーク時台数	640台 ^{*1}	—	—	—	—

注) ^{*1}については平均待台数が1台の場合の台数を使用した。

注) ^{*2}については平均待台数が3台の場合の台数を使用した。

- (4) 令和6年度を曜日別に分類し、この日数に上記(3)で求めた時間数を乗ずることで、繁忙時レーン開放時間を算出する。
 ③1人当たりブース勤務時間
 (1) 料金徴収員は、1勤務8時間45分の拘束時間のうち、45分の休憩時間を除いた8時間ブースにて徴収を行うものとして算定。
- ④営業開始及び終了必要時間
営業開始時及び終了時に伴い、その準備（つり銭の準備・運搬、収受機・通行券のセット等）に各15分、計30分必要であるものとして算定。
(ただし、東芝テック製のPOS型収受機を使用している道路は、営業終了時のデータ送信に追加で必要となる15分を加算する。)

⑤年間勤務日数

年度	年間日数	年間休日日数			年間勤務日数	6年度
		公休日	年休等	計		
6年度	365	109	10	119	246	

公休日	109日
土曜日	52日
日曜日	52日
12/29～ 1/3の平日	5日